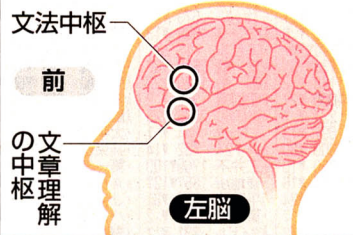


## 英語力上達に関係する脳の部位



べると、短期習得者は文法中枢の活動が盛んな人ほど成績がよく、長期習得者は逆に活動が低いほど成績がよかった。短期習得者は文法中枢に蓄えた知識を総動員しなければならないが、長期習得者は文章を理解する回路ができあがりスムーズに思い出せることがわかった。熟練により省エネ型の脳になるらしい。(鍛冶信太郎)

## 英語習得に活動脳の部位解明

東京大、宮城学院女子大などのグループは、英語を学ぶ際に重要な働きをする脳の部位を突き止めた。英語力を定着させるには、短期間での習得よりも、6年以上続けて英語に接する方が重要なことがわかった。5日付の米脳科学誌電子版に発表される。東京大の酒井邦嘉准教授(言語脳科学)らは、中高生に英文を見せ文法の正しさを判断してもらい、その際の脳活動を調べた。すると、母国語の日本語を理解するのに使われる左脳前部の「文法中枢」と「文章理解の中枢」と呼ばれる部位が、英文を判断するとき日本語のときよりも、盛んに活動することがわかった。

また、英語の学習期間が1年以上6年未満の短期習得者と、6年以上学習を続ける長期習得者を比